

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 29

2019年3月9日(土)発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

## 小平の歴史と自然

白梅学園大学・短期大学副学長 平賀明彦

大学の授業の中でも触れることが多いのですが、私たちは、自らの居住地や、通勤、通学などで日々接している身近な地域に関心を持つことが大切だと思います。慌ただしい日常の中で、ただ通り過ぎてしまっている周囲の景観、地名、地形などに、あらためて思いを馳せ、注意を向けて、その由来などを紐解いてみると、日頃、ありきたりのものとして、当たり前のように過ごしてきたそれまでとは違う世界に浸れるかも知れません。

今、試みに本学が立地している場所を例にとり、そのような意識を持って振り返ってみると、青梅街道とその南を、凡そ並行するように東西に走る五日市街道の中間にあって、たかの街道と呼びならわしている道沿いに本学園はあります。少し離れて東側には南北に、府中街道が通っていますが、これは古来から東山道武蔵路(むさしみち)、そしてその後には鎌倉街道と言われた主要道でした。このように、古くからの比較的大きな道に取り巻かれています。もう一つ、近くを玉川上水が流れていることも特徴になっています。

玉川上水は、17世紀の中頃、多摩川の水を羽村から取り入れ、江戸の町に流すために開削されました。開

府から50年足らずでしたが江戸の町の賑わいは甚だしく、東は墨田川河畔、南は品川方面に町域は広がって行きました。当然それにもなって人口も増加し、神田上水によって井の頭の池から引いて来ていた生活水では足りなくなっていました。水道の水で産湯をつかったというのは江戸の人々の自慢の種でしたから、新たな水源が求められたのは当然のことでした。その願いに応じて玉川上水が引かれたわけですが、100mの間の高低差わずか21cmという緩やかな傾斜の台地を、基本的にはその高低差のみを頼りに水を流すことは至難の業でした。しかも、できるだけ最短の水路で達成したのですから、当時の測量、土木工事の技術の高さが良く示されていると言えましょう。



この上水ができたことで周りには人々が集まって来ました。さらに上水のあちこちからは南北に分水が引かれましたが、その水路沿いにも集落が出来て、今日のような町の姿が出来上がって行ったわけです。この例のように、自分たちの身の回りで、普段は余り気にとめないようなものについて、少しその成り立ちなどを調べてみてはどうでしょうか。日々の生活をより潤いあるものにしてくれると思います。

### 小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

# 卒業制作とほっとスペースさつき

## 武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科 4年 佐藤花菜美

先日、武蔵野美術大学の卒業制作展が終了しました。私は「お年寄りとスマートフォン」をテーマにした作品を展示しておりました。

このテーマを選んだのは、同居している祖父母がスマホに買い替え約2年が経とうとしている今も質問が絶えなかったことがきっかけです。祖父母と同じような悩みを抱えている方は居るのだろうか。どんな悩みを抱えているのだろうか。そう疑問に思ったことから研究を始めました。



まず、ゼミの教授にコミュニケーションサロン「ほっとスペースさつき」（以下さつき）を紹介していただき、さつきを利用されているスマホユーザーのお年寄りの方へインタビューを行いました。

スマホに関して困っていることを伺い、一緒に操作してみたことで気づいたのは、機械慣れしている人と苦手意識のある人には感覚に大きな差があるということです。やりたいこと、使いたい機能はあるけれど、恐怖心から進んだ操作に踏み込めずにいる方が多くいらっしゃいました。また、何か分からないことがあつ

ても身近に質問できる人がおらず、すぐに解決できないという声も多く見受けられました。



そこで、楽しくスマホを操作することを目的としたワークショップを企画しました。3名のスマホユーザーの方にご参加いただき、LINEでお気に入りの写真を共有する、地図を利用し目的地までの経路を辿るなどのプログラムを実践しました。分からないことをすぐに質問できる環境を作ることで、今までやってこなかった少し複雑な操作も楽しく挑戦することができ、今後も色々試してみたいという感想をいただくことができました。

卒業制作展では、インタビューでいただいたスマホの問題点を分析した表、ワークショップの様子を記録した映像などを展示しました。

今回、制作を通しスマホの問題、スマホを利用されている方を取り巻く環境にある問題点について学ぶことができました。それだけでなく、地域の方が気軽に集える居場所があること、世代間交流の大切さをさつきで学ぶことができました。ご協力いただいたさつきの皆さま、本当にありがとうございました。

## 白梅祭-白梅学園大学・短期大学

10月20日(土)21日(日)、白梅学園大学・短期大学において学園祭が開催されました。天候にも恵まれて、大勢の参加者がありました。講演会や模擬店、展示な

ど様々な企画に外部からたくさんの参加者がありました。パンフレットの配布状況から2000名近くになると集計されています。なお模擬店では予想外に売れてしまい、



早々と店じまいとなってしまった企画もありますが、売れ残って安売りをしているところもありました。

小平西地区地域ネットワークも展示に参加し、期ごとに発行された「小平西のきずな」を板に貼って展示し、合わせて各ブロックの展示も行いました。それから現在

試行運転が行われている「コミュニティタクシー」についても、小平市の公共交通課から資料の提供をいただいて展示しました。

訪問していただいた数はそれほど多くはありませんが、西ブロックの取組みに関心を示して色々質問を行ってくれた方や取組みの内容を評価してくれた方々もいました。もう少し地域の方々の参加があればよかったと思いますが、逆にゆっくりと話をすることができたのでその点では良かったと思います。

## 「分かった会」の思い出

### 都立高校3年 K. M. (女子)

私は今市内にある都立高校の3年生です。中学生のとき、分かった会に毎週通っていました。そのときの



こととお話しします。

中学校3年間は吹奏楽部に所属していて、3年生の10月に引退しました。それまではまともに勉強していませんでした。そろそろ勉強しなくては思っていた頃、友達のお母さんから分かった会への入会を勧めら

れました。それまで民間の塾などに一度も通ったことはなく、塾に通っていた友達が「いやになって辞めた」と何度も聞いたことがあり、分かった会についても最初は不安を持っていました。

見学に行ったとき、その不安は消えました。友達がそこにいたこともあり、“アットホーム”な雰囲気がすばらしく、これなら毎週通えそうだという気分になり、連続して通いました。

私が気に入ったのは、先生が全員優しいことでした。どの先生も優しく丁寧に教えてくださいました。私は数学や理科が苦手だったのですが、分かるようになるまで何度も教えてくれたので助かりました。また、勉強をする習慣が身につきました。こうした結果、今年の3月志望の都立高校になんとか合格できました。分かった会に通っていなかったら合格できなかったと思います。高校に入った今でも、分かった会での勉強に支えられています。

## 「分かった会」の5年のささやかな歩み

### 奈良 勝行

2013年12月に小平の西側地域に学習支援の場として「分かった会」が誕生して早や5年が過ぎました。

それよりの前の2012年3月に白梅学園大学の呼びかけで「小平西地区地域ネットワーク」が設立。私は、

そのネットワーク世話人の一人としてどんな分野で関われるかを考え、都立高校の教師をやっていた経験から、学校の授業にどうしても遅れがちな生徒に光をあて無料の学習支援の場を設けることを提案しました。ネットワークの世話人会で承認され、当初は7~8人の生徒と数人の講師からスタート。会場は無料で使用できる市立小川公民館の講座室で、週1回木曜日の夜6~8時に開くことにしました。

翌年、厚生労働省による「生活困窮家庭自立支援法」に基づいて貧困家庭の生徒の地域学習支援活動に大学が運営主体となってやってもらえないか、と小平市側から提案がありました。大学と市当局と数回協議しましたが、地元の小さな大学の力量からそれは不可能ということになり、学びたいと思う生徒なら誰でも入れ

るスペースにしようということにしました。講師は市の広報紙に「ボランティア講師の募集広告」を出したところ、数名の応募があり、指導を依頼しました。

現在、講師は12人、生徒は在籍24人（例外的に小6生一人を除いて全員中学生）。木曜日の他に中3生の希望により高校の受験指導を目的に火曜日コースも追加。

2019年3月14日（木）に第4回の修了式を行い、9人が分かった会を巣立っていきます。全員、都・私立高校の入試に合格して、4月に進学します。これまでの修了生の累計は32人。私たち講師は、この修了生が進学して、近い将来分かった会に「里帰り」して、“後輩”の中学生の指導の援助にあたってもらえることを期待しています。修了生、がんばれ！

## 小平南西(B)地域に コミュニティタクシーがやっと走った

### 鷹の台南西(B)地域にコミタクを「走らせる会」事務局 山本邦子

コミバス・コミタク運動は、西武バス路線の廃止から始まった市民運動です。1999年1月に「小平に循環バスを走らせる会準備会」が設立し、5年目の2004年1月18日に運行が開始されました。それが、小平駅から津田公民館を走る「にじバス」です。狭い道路でも走れるように、バスからタクシーの要求に代わり、小平市を4つ(ABCD)に区切り、A、C、D地域には、すでに、コミタクが運行され、たくさんの方が乗車して、喜ばれています。私たちのこの南西(B)地域が取り残され、「走らせる会」が発足してから4年目にして私たちの要求が実り、昨年の7月29日より実証実験運行が始まり、6カ月たった今年の1月29日で終わりました。3月1日からは、上水本町・一橋ルートの実証実験運行が始まります。

南西地域は広いので、ルートが一つでは30分間隔での運行が無理であり、公共交通課の話ですと、鷹の台ルートと上水本町・一橋ルートで乗車人数の多い方を選ぶとの話です。しかし、鷹の台ルートの乗車数は採算がとれるかどうかの判断基準の数(1日70人)よりも少なかった(実績平均31人)のですが、データを見

ますと一日平均200人近くの人たちが乗車しています。200人ということは決して少ない人数ではありません。今日で最後という日に乗車した人たちからは、思ったよりも「便利で助かった」「なくさないでほしい」の声は沢山聞かえてきました。

今まで取り組んできた私たちは、これで終わりにしないで、鷹の台(B)地域の交通の不便さを解消すべく、2コースを走らせるか、2コースを1本にして交通の不便さを解消してほしいと思います。

毎日の買い物、気軽に行ける病院、市役所、図書館、公園など近くに停留所があり、気軽に乗れるバスが走り、行きたいところにいける、そんな街であつたらと誰もが思うことでしょう。鷹の台B地域のコースが運行されれば、すでに走っているACD地域を合わせ、小平市全体の交通網がひかれます。4コースが運行した暁には、乗り換えが自由な交通網を考え、小平市内を自由に好きなところにいける明るい住みよい小平に変貌できると確信しています。

# 白梅幼稚園 『子どもがつくる世界』(作品展)

## 白梅幼稚園園長 山形 美津子

平成30年11月23日(金)24日(土)、白梅幼稚園では『子どもがつくる世界』を開催しました。あれ、それって「作品展」のこと?と思われた方もいらっしゃるでしょう。今年度、白梅幼稚園では『作品展』という名称を改め、『子どもがつくる世界』としました。それは、子どもは遊びに必要なものを作り、作ったものや場で遊び、また作りながら遊ぶことを日々繰り返しています。遊びが豊かになるにつれ、作りたいものもはっきりしてきます。その中で、材料を吟味したり、用具を使うために必要な技能を身に付けたりしていきます。このような「子どもの遊び」は際限なく続いていきます。何かをきれいに飾って展示するのではなく、この際限なく続く「子どもの遊び」の一場面を切り取ったものが、『子どもがつくる世界』だ、ということで名称を変更しました。

当日、幼稚園に一步足を踏み入れたら、どの部屋もそこはまさに『子どもがつくる世界』!!



3歳児年少組の部屋には、毎日子どもたちが遊んでいる「ままごとのコーナー」や「のりもののワールド」などが再現されています。子どもたちは遊びの中でいろいろなものに見立てたり、なりたいものになって遊びを繰り広げています。そんな世界が見られる部屋になっていました。4歳児年中組の部屋には、木工で表現した大好きな虫の世界、夏休みの体験からダンスの世界、遊びは園庭にも広がって、キャンプごっこや電車ごっこと多彩



です。その中で仲間と対話し、仲間と一緒に夢中になって遊んできた足跡がたくさん見られました。

5歳児年長組は、手先の技能が高まってきたからこそ作れる細かな工作、いろいろな素材を使って本物らしく作ることに自分のもっている技能や発想を取り入れて時間をかけて作り上げています。その世界は恐竜の世界、妖怪の世界、みんなの町、今から昔へのタイムスリップなど、仲間と一緒にアイデアを出し合い、協力し合って作り上げていました。



このように今年の白梅幼稚園の「子どもがつくる世界」はこれまでの作品展と少し違った指向で行いました。大勢の方にお越しいただき、ありがとうございました。

## 「ベトナムに住んだらどう?」-ベトナム訪問報告

### 瀧口優(保育科教員)

12月24日(月)午後羽田からベトナムのハノイに向か

った。11回目の訪問となるが、7年ぶりの訪問である。

1994年、英語教育の国際学会に参加したベトナムの英語教員を自宅に招いたことがきっかけである。1975年にベトナム戦争が終結し、アジアの小さな国が、世界を動かしている大国のアメリカに対して勝利した。「アリが象を倒した」といわれる戦いである。

それから20年たった訪問者の口からは、ベトナムも保育園ができつつあるが、戦争の影響もあっておもちゃは何もないということだった。日本ではおもちゃがあふれており、それらをベトナムに送れないかと考え、妻と二人で「ベトナムの子どもたちにおもちゃを送る会」を立ち上げ、以来15年にわたっておもちゃや文房具を送り続けた。合間にベトナムを訪問し、保育園や幼稚園、あるいは児童養護施設などを訪問して、見学がてら支援活動などをおこなってきた。最近では小学校を中心として英語の授業を見学させてもらっている。

それにしてもベトナムの変化は激しい。最初に訪問した時には、ちょうど日本の戦後のような状態で、町の中でカメラを向けるのに気が引けたが、年々街並みも道路も改善されている。自転車やオートバイだけが走る道路から徐々に車が増えて、今回の訪問では一般市民の中でも車を持つ人も出てきているようであった。

ハノイでは10年前から交流のあるハノイ大学幼児教育学科の先生に案内してもらって、文部省の訪問と小学校の英語授業をみせてもらった。訓練された英語の専任教員が教えているので、授業を楽しんでいる様子が見える。日本では担任の先生が教えるということで、様々なことが心配されている。



3日後に中部にあるフエ市を訪問した。人口が30万人ほどで、小平より少し人口が多いところであるが、長い間ベトナム王朝が置かれていたので、日本で言えば奈良や京都のような感じである。このフエ市の保育園と幼稚園におもちゃや文房具を送ってきたので、知り合いもたくさんできた。今回も3日間学校訪問以外は知り合い宅を訪ねた。お土産もたくさんもらい、帰りの飛行機では荷物だけで65kgに達してしまった。

その荷物を持って最後はベトナム南部のホーチミン市を訪ねた。わずか1泊であったが、そこでも人との出会いがあり、自分で放課後子どもクラブを開いているところを訪問した。

今回の訪問は、「おもちゃを送る会」の代表をしていた妻が亡くなったので、その報告のための訪問であったが、どこに行っても「一人になったんだからベトナムに來なさい。みんなで世話をするから」と言われた。あらためてベトナムは家族や高齢者を大切にすると実感した。

## 小川駅西口再開発計画にともない

# 市民参加のまちづくり・「まちカフェ」進行中！

## どなたでも参加できます！

### 第1ブロック 西 克彦

この欄で何回かお伝えしていますが、今回も現状についてのレポートです。

現在、西武国分寺線・拝島線が交差する小川駅とその所在する小川西町・小川東町では、次の諸点についての計画づくりと組織づくりが進んでいます。

1、 駅西口に接する1.2hrほどの地域の再開発計画

(小川駅改築計画もあり、市が並行して西武と協議中)

2、 現在その事業を実施する再開発準備組合の「組合」化と再開発の計画内容案作りが進められ、来年20(H32)年度に工事着手の予定を立てています。

3、 駅西口周辺の小川西町地域の商店・住宅施設な

どを含めての将来を考えたまちづくり（協議会あり）

- 4、まだ計画ですが、都市計画道路3・4・10号線（こぶし通り）を拝島線の地下通過で6小通りに接続させる都と市の計画が、「向こう10年以内での着手または完了」を目指す、としています。

そして、5番目には、1番の再開発計画で計画されている高層マンションビルの下層4、5階部に、市が「公共施設の改廃・移転計画＝公共施設マネジメント計画」によって移転予定とした西部市民センター（出張所、公民館、図書館）機能を移設する計画を進めていることです。

このマネジメント計画全体は、将来の人口減少をはじめとした諸変化に対応しようとする計画で、市中央部の福祉会館、健康センター、福祉事務センター、中央公民館、萩山団地となりの「元気村」の実施事業の一部移転・統合、改廃・建て替えなどや小中学校、公民館、図書館等を含めた計画で、全市での市民生活の利便性や条件、環境の変化にかかわる極めて大事な検討課題になっています。

この5番目の計画案づくりとして、「まちづくりデザインカフェ」が市中央部と小川方面の2ヶ所で運営されています。昨秋から始まり、希望する市民が参加し、市とファシリテーターとしての専

門家が会を進行させる形で行われています。どちらのカフェで出された意見も、市民の声として集約される形にはなっていますので、ぜひ一人でも多くの皆さんにご参加いただきたいと思います。

市としては、このカフェのほかに地域の子供たちから大人、事業所などからの意見の集約も同時並行で行い、それらも参考にして、それぞれのフロアのデザインや配置なども考えるとしています。まちづくりの案のこうした検討の仕方は、小平市にかつてなかったやり方といえましょう。

当面は、あと一回の中央・小川デザインカフェが、第2部3回目最終回として予定されています。

中央デザインカフェ 3月17日（日）午前9：30～12：00 福祉会館4階小ホール

小川デザインカフェ 3月17日（日）午後2：00～4：30 小川西公民館

この日は、中央では、地域に愛される新建物を目指そう！ 小川では、小川駅前の未来予想図をえがこう！がそれぞれ検討テーマになっています。初めてでも、当日でも誰でも参加できます。

詳細・問い合わせは、市の企画政策部 公共施設マネジメント課です。

TEL 042-346-9557

FAX 042-346-9513

## たいよう福祉センターまつり

### —今年も焼き鳥で貢献—

毎年9月の第一日曜日に行われるたいよう福祉センターまつりですが、今年は第2週となりましたが9月9日に開催されました。天候に恵まれ、たくさんの方が参加しました。開会式では小平市長のあいさつもあり、積み重ねを感じさせるものでした。



二階では手作りの展示販売や手話展示の教室なども開かれ、障がい者への理解を進める努力が続いています。1階のホールではミニコンサートなどが開かれていました。

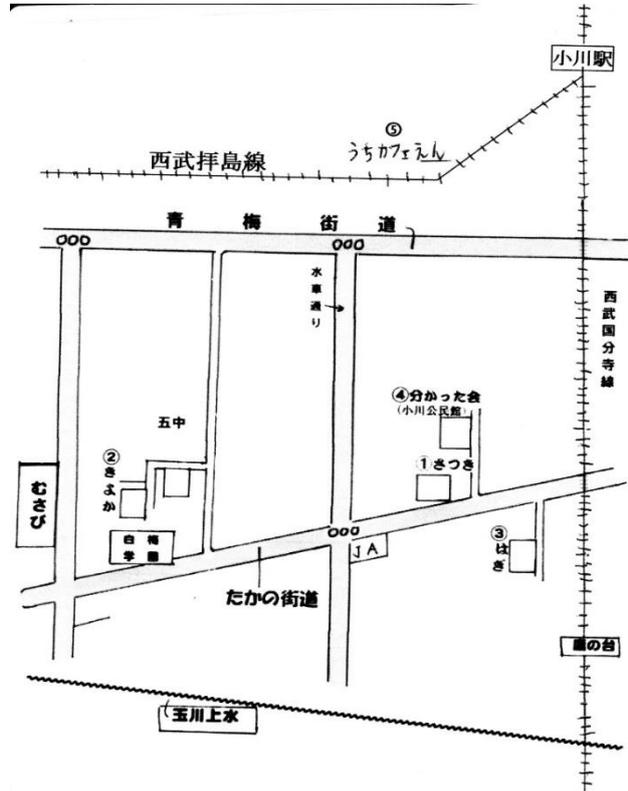
今年も白梅学園短期大学保育科 1 年生がヤキトリのボランティアに参加しました。朝 10 時からスタートして、準備した 400 本が 13 時過ぎには完売し、来年は 500 本でも大丈夫ではないかという声もありました。焼き鳥を求めて車いすの方々も多数訪れ、交流の機会にもなりました。

15 時過ぎからおわりのつどいが行われ、近くの小学校から「よさこいソーラン」のグループが参加して見事な演技を披露してくれました。このたいよう福祉センターのそばには、小平特別支援学校や東京都障害者職業能力開発校などもあり、障がい者にとって生活しやすい地域であることも意味があります。

## 皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① ほっとスペースさつき  
毎週火曜と木曜 10:00～16:00  
問い合わせ: 渡辺 穂積  
TEL: 042-344-7412
- ② ほっとスペースきよか  
毎週月曜 10:00～15:30  
問い合わせ: 石川 貞子  
TEL: 090-7732-2089
- ③ アットホームはぎ  
毎月 7, 17, 27 日: 14:00～17:00  
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ 「分かった会」小中無料学習教室  
毎週木曜日 18:00～20:30 (小川公民館)  
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)  
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ 子育てサロン「うちかフェス」(小川町)  
毎週月・水・木・土 10:00～15:30 分  
問い合わせ: 伊藤絹代  
TEL: 090-5441-6219



## イベントの予定

03月15日(金) 白梅学園大学卒業式  
10月06(日) 日本世代間交流学会(白梅学園大学にて)

## 西ネットの今後の予定

大学世話人会: 4月16日(火)  
地域世話人会: 5月07日(火)  
大学世話人会: 5月12日(火)  
懇談会: 6月09日(火)

西 ネット の 世 話

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・久 保田進・穂積健児・ 杉浦 博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野昂哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

人

**お願い**：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

**投稿募集**：このニュースレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール：[everonward.nara@xd5.sonet.ne.jp](mailto:everonward.nara@xd5.sonet.ne.jp)

**編集後記**：「小平西ネット」も2012年に設立されてからこの3月から8年目となり、広く地域に知られるようになってきています。私たちは、地域の取組みをつなぎながら顔の見える地域づくりを目指しています。皆様の積極的な参加をお願いします。原稿を寄せて頂いた方々、ありがとうございました(瀧口)。